

## 2 | セメントの歴史

コンクリートは古代ローマでも利用されていました。当時の闘技場であったコロッセオやパンテオン神殿で使用されています。当時は、石灰と火山灰などを混ぜたようで、大雑把に言えば、これがセメントになります。

耐久性があり使用しやすいため、はるか昔から人類は、コンクリート、そしてセメントと共に文明を築いてきました。

日本において初めてセメントが作られたのは、1875(明治8)年です。官営による東京深川工場が生産を開始しました。その後民営では、1881(明治14)年に、セメント製造会社小野田工場が生産が始まります。つまり民営では山口県が発祥の地となりました。宇部では、1923(大正12)年に宇部セメント製造(株)が創業されました。



コロッセオ：西暦70～80年ごろに建設(イタリア、ローマ)

### 山口県でいち早くセメント業が展開された理由は、大きく3つ

山口県は、安定的に原料を供給できるといふ豊かな資源と、合理的に生産・販売できる立地に恵まれていました！

#### 1つ目

##### ◎美祢市を中心に石灰石の一大産地があったこと

山口県西部に位置する美祢市は、全国有数の石灰石の産地です。全国生産量の約1割の石灰石を山口県が算出しています。

#### 2つ目

##### ◎宇部に炭鉱があったこと

セメントを生成するためには、高温で焼成する必要があることから、膨大なエネルギーを供給する必要があります。現在も焼成には石炭を多量に使用しており、2024(令和6)年には4,584千tの石炭が国内で使用されています。また、セメントの材料になる粘土を石炭の採掘時に得ることができるという利点もありました。粘土はセメントを製造する際、材料の30%前後を占めることもあります。

#### 3つ目

##### ◎船で運べる環境があったこと

生産したものを大量に日本各地に運ぶためには、流通ルートが必要でした。山口県は瀬戸内海に面し、太平洋側にも日本海側にも流通ルートを広げることができました。

#### 伊佐採石所

石灰石などを採石する場所です。

- 「宇部興産株式会社 UBE CEMENT」より転載。発行年不明/1960年頃



#### 宇部鉱業所東見初鉱

石炭記念館の展望台は、東見初の堅坑を移設され、再利用されました。

- 「宇部興産株式会社 事業概要」より転載。発行年不明/1950年代頃



#### 山陽無煙鉱業所

採炭された石炭は、工業用としても全国的に使用されました。

- 「宇部興産株式会社 事業概要1961」より転載

